

令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第3回）
開 催 要 項

- 1 日 時 令和3年11月22日（月）午後1時45分から午後4時まで
- 2 会 場 千葉県教育会館 203会議室
- 3 次 第
 - (1) 開会のことば
 - (2) 報告
 - ①令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第2回）概要について
 - ②令和4年度千葉県公立高等学校入学者選抜「一般入学者選抜」等における学校設定検査の内容について
 - ③令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会からの報告について
 - ④その他
 - (3) 協議
 - ①令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について
 - ②令和5年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜の改善について
 - ③その他
 - (4) その他
 - (5) 閉会のことば

千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会設置要綱

(設置)

- 第1 本県の公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について検討するため、「千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

(組織)

- 第2 協議会は、14名の委員をもって構成する。
- 2 委員の構成は次のとおりとする。
- | | | | |
|---------|----|----------|----|
| 大学関係者 | 2名 | 公立高等学校代表 | 2名 |
| 公立中学校代表 | 2名 | 公立小学校代表 | 1名 |
| 私立学校代表 | 1名 | 市町村教育長 | 2名 |
| P T A代表 | 2名 | 政令市教育長 | 1名 |
| 企業関係者等 | 1名 | | |
- 3 協議会には委員長及び副委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

(委員の任期)

- 第3 委員の任期は1年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(専門部会)

- 第4 協議会は、専門的な調査研究を行うため専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会の構成及び人数は協議会で決定する。
- 3 専門部会には主査1名を置くものとし、協議会の委員のうち公立高等学校代表の中から1名をこれに充てることとする。

(庶務)

- 第5 協議会及び専門部会に関する庶務は、千葉県教育庁教育振興部学習指導課において処理する。

(補足)

- 第6 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。
- 2 協議会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき法律又は条例により設置された附属機関ではない。

附則

(施行期日)

- 1 この要綱は平成31年4月1日から施行する。

(失効)

- 2 この要綱は令和4年3月31日限り、その効力を失う。

令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会委員名簿

No.	氏名	職名	新規 継続	備考
1	佐藤 智司	千葉大学 副学長	継続	
2	忍田 直之	淑徳大学 千葉キャンパス アドミッションセンター 千葉オフィス室長	継続	
3	川名 聡彦	株式会社 千葉測器ホールディングス 業務部長	継続	
4	釜菴 徳行	千葉県立千葉女子高等学校長	新規	
5	深山 和利	千葉県立成田国際高等学校長	継続	
6	伊東 隆	銚子市立銚子中学校長	新規	
7	三浦 明久	印西市立印旛中学校長	継続	
8	内田 淳一	山武市立成東小学校長	新規	
9	佐久間 勝彦	千葉経済大学附属高等学校長	継続	
10	小熊 隆	習志野市教育委員会教育長	継続	
11	藤ヶ崎 功	栄町教育委員会教育長	継続	
12	磯野 和美	千葉市教育委員会教育長	継続	
13	須合 勝雄	千葉県高等学校PTA連合会 会長	新規	
14	濱詰 大介	千葉県PTA連絡協議会 会長	新規	

令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第2回）【概要】

日時：令和3年9月7日（火）～10日（金） 書面開催

1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司、忍田 直之、川名 聡彦、釜菴 徳行、深山 和利、伊東 隆、三浦 明久、
内田 淳一、佐久間 勝彦、小熊 隆、藤ヶ崎 功、磯野 和美、須合 勝雄、濱詰 大介

2 報告及び協議事項

(1) 報告

①令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会(第1回)の概要について

(2) 協議

①令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会委員について

3 協議内容

(1) 令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会委員について

・事務局より、専門部会委員を提案した。

→ 全委員より書面にて了承していただいた。

令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第1回）【概要】

日時：令和3年7月30日（金）午後2時から午後4時

場所：千葉市文化センター 会議室Ⅱ

1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司、忍田 直之、川名 聡彦、釜菴 徳行、深山 和利、三浦 明久、佐久間 勝彦、
小熊 隆、藤ヶ崎 功、須合 勝雄、濱詰 大介

2 次第

(1) 開会のことば

(2) 県教育委員会挨拶

(3) 委員紹介

(4) 委員長、副委員長選出

(5) 報告

①令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜の結果等について

②令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜における学習成績分布表等の公表について

③令和4年度千葉県公立高等学校第1学年入学者選抜要項について

④令和4年度千葉県公立高等学校第1学年入学者選抜における選抜・評価方法について

⑤その他

(6) 協議

①令和5年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜の改善について

②令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

③その他

(7) 閉会のことば

3 報告・協議内容

(1) 令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜の結果等について

令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜の結果等について

- ・英語科で受検者の得点分布が2極化している。分析をする必要がある。
- ・募集定員を充足していない学校が多い。

→高校1年生、中学校3年生、保護者、高等学校長、中学校長を対象にアンケートを実施し、その結果をまとめている。今後その結果を分析していく。

- ・私立高校と公立高校の入試日の間隔が大きいことも県立高校で募集定員を充足していない学校が多いことの原因ではないか。

- (2) 令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜における学習成績分布表等の公表について
- (3) 令和4年度千葉県県立高等学校第1学年入学者選抜要項について
- (4) 令和4年度千葉県公立高等学校第1学年入学者選抜における選抜・評価方法について
- (5) 令和5年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜の改善について
令和5年度入学者選抜以降の課題について意見をいただいた。
新しい入学者選抜制度の検証を行うため、専門部会を設置することに了承をいただいた。
- (6) 令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について
令和5年度入学者選抜の日程について、案の趣旨等を説明。
- ・卒業式など、各学校での行事の日程についても検討できるよう、例年12月の教育委員会議会で決定している。
 - ・私立高校との公立高校の入試間隔があまり大きくない方がよい。
 - ・2月中旬あたりが良い。
 - ・週休日や祝日に入試を行うことはできないのか。
 - ・休日明けの入試では施設管理の面などで不安がある。
 - ・今回提示された日程案について、再度意見をいただくこととする。

令和3年度 千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会
 専門部会委員

1 主査（1名）

氏名	勤務校	職名	備考
深山和利	県立成田国際高等学校	校長	主査

2 中学校関係者（5名）

氏名	勤務校	職名	備考
今井清仁	東金市立東金中学校	校長	副主査
鳥海勉	浦安市立入船中学校	教頭	
山本友子	市原市立姉崎東中学校	教頭	
松山勝司	四街道市立千代田中学校	教諭	
加藤亮二	九十九里町立九十九里中学校	教諭	

3 高等学校関係者（5名）

氏名	勤務校	職名	備考
土屋俊之	県立松尾高等学校	校長	副主査
村上英輝	県立船橋法典高等学校	教頭	
菅原大介	県立柏南高等学校	教頭	
森谷一雅	県立千葉北高等学校	教諭	
山口有紀	県立長生高等学校	教諭	

令和4年度千葉県公立高等学校入学者選抜「一般入学者選抜」等における 学校設定検査の内容等について

- 1 一般入学者選抜
 - (1) 実施する学校・学科
全日制の課程 121校198学科 定時制の課程 16校16学科
 - (2) 検査の内容
学力検査、学校設定検査

- 2 海外帰国生徒の特別入学者選抜
 - (1) 実施する学校・学科
全日制の課程 20校26学科
 - (2) 検査の内容
学力検査（国語、数学、英語）、学校設定検査

- 3 外国人の特別入学者選抜
 - (1) 実施する学校・学科
全日制の課程 12校15学科 定時制の課程5校5学科
 - (2) 検査の内容
面接及び作文（いずれも英語又は日本による。）

- 4 連携型高等学校の入学者選抜
 - (1) 実施する学校・学科
県立関宿高等学校普通科
 - (2) 検査の内容
学力検査（国語、数学、英語）、面接

- 5 地域連携アクティブスクールの入学者選抜
 - (1) 実施する学校・学科
県立泉高等学校普通科、県立船橋古和釜高等学校普通科、
県立流山北高等学校普通科、県立天羽高等学校普通科
 - (2) 検査の内容
各高等学校において別に定める検査

- 6 通信制の課程の入学者選抜の一期入学者選抜
 - (1) 実施する学校・学科
県立千葉大宮高等学校普通科
 - (2) 検査の内容
面接及び作文

○一般入学者選抜での各高等学校において実施する学校設定検査の内容

【各検査を実施する学校・学科の数】

学校設定検査の内容	全日制の課程 121校 198学科	定時制の課程 16校 16学科
面接	78校 125学科	16校 16学科
集団討論	1校 1学科	0校 0学科
自己表現	45校 63学科	0校 0学科
作文	11校 16学科	1校 1学科
小論文	1校 2学科	0校 0学科
適性検査	8校 12学科	0校 0学科
学校独自問題による検査	0校 0学科	0校 0学科
その他の検査	思考力を問う問題	1校 1学科
	その他	0校 0学科

○海外帰国生徒の特別入学者選抜での各高等学校において実施する学校設定検査の内容

【各検査を実施する学校・学科の数】

面接	19校 25学科
自己表現	1校 1学科
作文	3校 4学科

○地域連携アクティブスクールの入学者選抜での各高等学校において別に定める検査

【各検査を実施する学校・学科の数】

学力検査（国語、数学、英語）	4校 4学科
面接	4校 4学科
自己表現	1校 1学科
作文	4校 4学科

令和 3 年 1 1 月 2 2 日

令和 3 年度千葉県公立高等学校
入学者選抜方法等改善協議会

委員長 小 熊 隆 様

令和 3 年度千葉県公立高等学校
入学者選抜方法等改善協議会専門部会

主 査 深 山 和 利

令和 3 年度千葉県高等学校入学者選抜の検証について（報告）

このことについて、別添のとおり意見を取りまとめたので報告します。

令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会報告

1 経緯

本専門部会は、令和3年9月10日、令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会から、令和3年度千葉県高等学校入学者選抜の検証について、専門的な調査・研究を付託された。

2 委員

深山和利主査

今井清仁副主査、鳥海 勉委員、山本友子委員、松山勝司委員、加藤亮二委員
土屋俊之副主査、村上英輝委員、菅原大介委員、森谷一雅委員、山口有紀委員

3 開催日時

第1回 令和3年9月14日(火) 午前9時30分から正午まで
第2回 令和3年10月12日(火) 午前9時30分から正午まで
第3回 令和3年11月4日(木) 午前9時30分から正午まで

4 調査研究内容

(1) 研究主題

ア 令和3年6月実施の千葉県公立高等学校入学者選抜制度のアンケート結果の分析

イ 新しい入学者選抜制度の検証

(ア) 一本化に改善した目的が、達成されたか。

(イ) 一本化されたことにより、中学校・高等学校にどのような影響が出ているか。

(2) 研究内容

ア 新しい入学者選抜の改善方針について確認した。

- ・前・後期選抜の理念を継承し、学習の成果に加え、中学校での取組や活動経験等、生徒の優れた面を多面的に評価できる選抜とし、学力検査と各学校で定める検査を実施する。
- ・中学校・高等学校における授業時間を確保するため、1回の入学者選抜とし、実施時期を遅らせる。
- ・受検生の負担を軽減するため、学力検査を2日に分けて実施する。
- ・インフルエンザ罹患による急な発熱等により本検査を受検できなかった者に対し受検機会を保障するため追検査を設ける。

イ 千葉県公立高等学校入学者選抜改善の経過について確認した。

- ・推薦入試の全校実施（平成9年度）
- ・特色ある入学者選抜実施（平成15年度）
- ・前期選抜・後期選抜実施（平成23年度）
- ・一般入学者選抜＝現行の選抜（令和3年度）

ウ 「一本化されたことにより、『改善した目的が達成されたか』、『中学校・高校にどのような影響が出ているか』の二つの研究主題」について、令和3年6月実施の「千葉県公立高等学校入学者選抜制度のアンケート結果」を分析しながら、協議を行った。

主な意見は、次のとおりである。

(ア) 改善した目標に関して

- ・アンケートから、多くの生徒が一本化されたことに不安を感じていたが、受検校の選択には影響しなかったと答えている。また、一回しか受けられないのでレベルを下げて受検校を選んだとも答えている。
- ・委員からは、改善した目的が達成されたかについては、目標を持った生徒が志願したとする意見と、中学生は受検の際、安全策を取ったようで、達成されていないとする意見とがあった。
- ・一本化されたことにより、中学・高校とも授業時数は増え、授業時間の確保ができた。また、受検生の負担は軽減されたと考えられる。
- ・生徒の優れた面を多面的に評価する目的で二段階選抜が導入され、13校が実施した。
- ・学力検査の成績、調査書の記載内容及び学校設定検査の結果をもとに選抜を行っており、各高校は、生徒の優れた面を多面的に評価したと考えている。ただし、今後、各資料の配点等を検討する等して、各校でより充実した選抜方法に改善してほしい。

(イ) 各高校の特色のPRに関して

- ・各高校は特色を明確にする等の努力をし、その取組は評価できるが、それがうまく中学生に伝わっていない。むしろ、私立高校の方がうまく伝えている。
- ・私立高校の方が、部活動等を積極的に評価しているように思われる。
- ・二段階選抜を行う高校が少なく、高校の特色が明確になっているとは言えない。
- ・選抜方法で、調査書等の内容が全て得点化されたことにより、特色を出しづらくなった。
- ・学校の特色に沿った、中学校での取組を積極的に評価する選抜を実施する公立高校が増えても良いと思う。

(ウ) 二次募集について

- ・費用面で公立・私立の差が少なくなり、二次募集まで受けて公立を希望する生徒は少なくなった。
- ・各中学校では合格発表の数日後に卒業式を予定している。そのような状況で二次募集に志願する生徒は少ない。

(エ) 入試時期について

- ・一本化され公立高校の入試日程が遅くなったが、私立高校の日程は変わらなかった。これにより、私立高校の検査日から公立高校の検査日まで一ヶ月以上の間が空いてしまった。この期間の中学生の精神的な負担を考えると期間を短くするよう日程を検討しても良いのではないか。
- ・休日の翌日に学力検査を実施することは、避けてほしい。

(オ) 今後の調査・研究について

- ・今年度実施したアンケートは、公立高校に合格した生徒が対象となっており数が限られている。次年度は、年度内にアンケートを実施する等して、より多くの生徒の意見を聞き、引き続き入学者選抜の改善について検討する必要がある。

千葉県公立高等学校入学者選抜日程(案)

令和4(2022)年度選抜 発表済				令和5(2023)年度選抜 (案)A				令和5(2023)年度選抜 (案)B				令和5(2023)年度選抜 (案)C			
1月	30	日		1月	30	月		1月	30	月		1月	30	月	
	31	月			31	火			31	火			31	火	
2月	1	火		2月	1	水		2月	1	水		2月	1	水	
	2	水			2	木			2	木			2	木	
	3	木			3	金			3	金			3	金	
	4	金			4	土			4	土			4	土	
	5	土			5	日			5	日			5	日	
	6	日			6	月			6	月			6	月	
	7	月			7	火			7	火			7	火	
	8	火			8	水			8	水			8	水	出願受付
	9	水	出願受付		9	木	出願受付		9	木			9	木	出願受付
	10	木	出願受付		10	金	出願受付		10	金			10	金	出願受付
	11	金			11	土			11	土			11	土	
	12	土			12	日			12	日			12	日	
	13	日			13	月	出願受付		13	月	出願受付		13	月	
	14	月	出願受付		14	火			14	火	出願受付		14	火	
	15	火			15	水			15	水	出願受付		15	水	志願・希望変更
	16	水			16	木	志願・希望変更		16	木			16	木	志願・希望変更
	17	木	志願・希望変更		17	金	志願・希望変更		17	金			17	金	
	18	金	志願・希望変更		18	土			18	土			18	土	
	19	土			19	日			19	日			19	日	
	20	日			20	月			20	月	志願・希望変更		20	月	
	21	月			21	火			21	火	志願・希望変更		21	火	本検査
	22	火			22	水	本検査		22	水			22	水	本検査
	23	水			23	木			23	木			23	木	
	24	木	本検査		24	金	本検査		24	金			24	金	追検査受付
	25	金	本検査		25	土			25	土			25	土	
	26	土			26	日			26	日			26	日	
	27	日			27	月	追検査受付		27	月	本検査		27	月	追検査受付
	28	月	追検査受付		28	火	追検査受付		28	火	本検査		28	火	
3月	1	火	追検査受付	3月	1	水		3月	1	水	追検査受付	3月	1	水	追検査
	2	水			2	木	追検査		2	木	追検査受付		2	木	
	3	木	追検査		3	金			3	金			3	金	発表
	4	金			4	土			4	土			4	土	
	5	土			5	日			5	日			5	日	
	6	日			6	月	発表		6	月	追検査		6	月	
	7	月	発表		7	火			7	火			7	火	
	8	火			8	水			8	水	発表		8	水	2次受付
	9	水			9	木	2次受付		9	木			9	木	2次志願変更
	10	木	2次受付		10	金	2次志願変更		10	金			10	金	
	11	金	2次志願変更		11	土			11	土			11	土	
	12	土			12	日			12	日			12	日	
	13	日			13	月			13	月	2次受付		13	月	2次検査
	14	月			14	火	2次検査		14	火	2次志願変更		14	火	
	15	火	2次検査		15	水			15	水			15	水	2次発表
	16	水			16	木	2次発表		16	木	2次検査		16	木	
	17	木	2次発表		17	金			17	金			17	金	
	18	金			18	土			18	土			18	土	
	19	土			19	日			19	日			19	日	
	20	日			20	月			20	月	2次発表		20	月	
	21	月			21	火			21	火			21	火	
	22	火			22	水			22	水			22	水	
	23	水			23	木			23	木			23	木	
	24	木			24	金			24	金			24	金	
	25	金			25	土			25	土			25	土	
	26	土			26	日			26	日			26	日	
	27	日			27	月			27	月			27	月	
	28	月			28	火			28	火			28	火	
	29	火			29	水			29	水			29	水	
	30	水			30	木			30	木			30	木	
	31	木			31	金			31	金			31	金	

千葉県公立高等学校入学者選抜制度のアンケート結果について

千葉県教育庁教育振興部学習指導課

1 調査対象（マイクロソフトフォームズでアンケートを実施）

(1) 県内公立中学校長（以下、中学校長）

- ア 依頼 311名 (311校)
- イ 回答 295名 (回答率94.9%)

(2) 県内公立中学校第3学年生徒（以下、中3生徒）

- ア 依頼 933名 (311校、各校3名)
- イ 回答 744名 (回答率79.7%)

(3) 県内公立中学校第3学年保護者（以下、中3保護者）

- ア 依頼 933名 (311校、各校3名)
- イ 回答 742名 (回答率79.5%)

(4) 県内公立高等学校長（以下、高校校長）

- ア 依頼 128名 (128校)
- イ 回答 126名 (回答率98.4%)

(5) 県内公立高等学校第1学年（以下、高1生徒）

- ア 依頼 4690名
- イ 回答 3616名 (回答率77.1%)

(6) 県内公立高等学校第1学年保護者（以下、高1保護者）

- ア 依頼 4692名
- イ 回答 2324名 (回答率49.5%)

2 実施時期

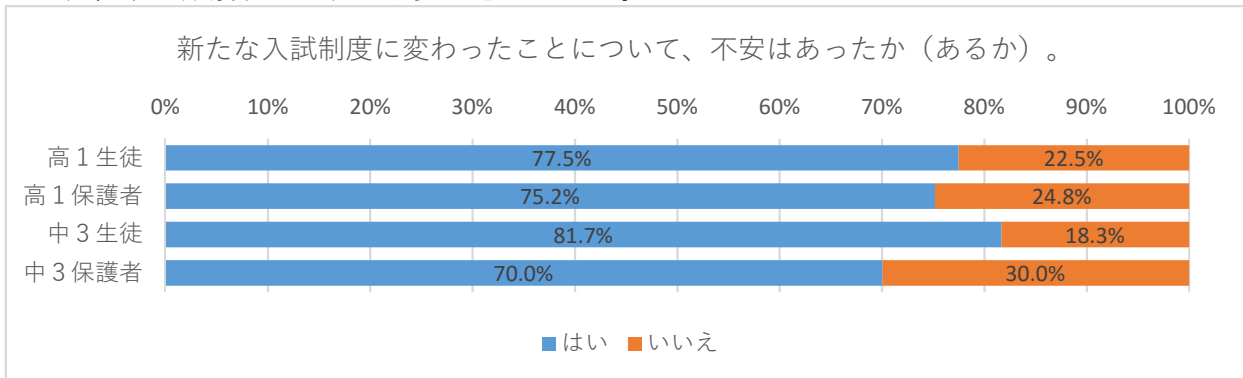
令和3年6月2日から令和3年6月24日まで

3 アンケートの概要とその結果

グラフは、無回答を集計から除いた割合で表示してあります。

問1 新たな入試制度での不安感について

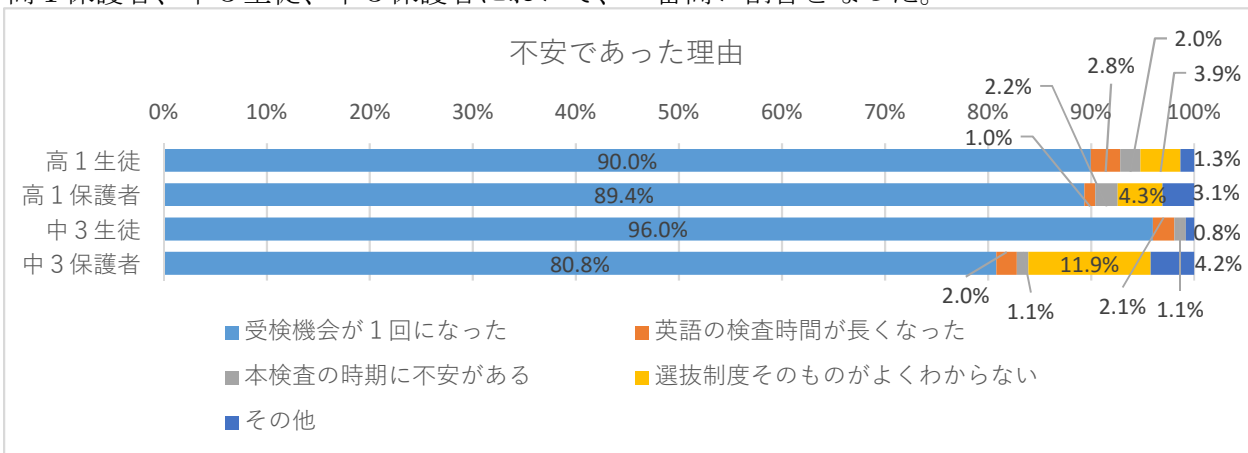
高1生徒77.5%、高1保護者75.2%が不安を感じていた。また、今年度受検する中3生徒81.7%、中3保護者70.0%が不安を感じている。



	はい	いいえ
高1生徒	2794	811
高1保護者	1745	576
中3生徒	607	136
中3保護者	519	222

問2 入試制度における不安の理由について

「2回の受検機会が1回になったこと」が不安の理由であると回答した割合が、高1生徒、高1保護者、中3生徒、中3保護者において、一番高い割合となった。



	受検機会が1回になった	英語の検査時間が長くなった	本検査の時期に不安がある	選抜制度そのものがよくわからない	その他
高1生徒	2623	83	57	113	39
高1保護者	1631	19	40	79	56
中3生徒	600	13	7	5	5
中3保護者	442	11	6	65	23

問3 「その他」の不安の理由について

【高1生徒】

- ・問題の形式や難易度が大きく変わる可能性があると思ったから。
- ・問題が増えるかと思ったから。
- ・初めての受検で何もわからなかったから。

【高1保護者】

- ・県外からの受検だった為、情報不足だったから。
- ・倍率の予想がつかなかったから。
- ・1回になるのは、よいと思ったがコロナがあったので不安だったから。
- ・コロナ禍の中、ストレスや勉強の遅れなど。

【中3生徒】

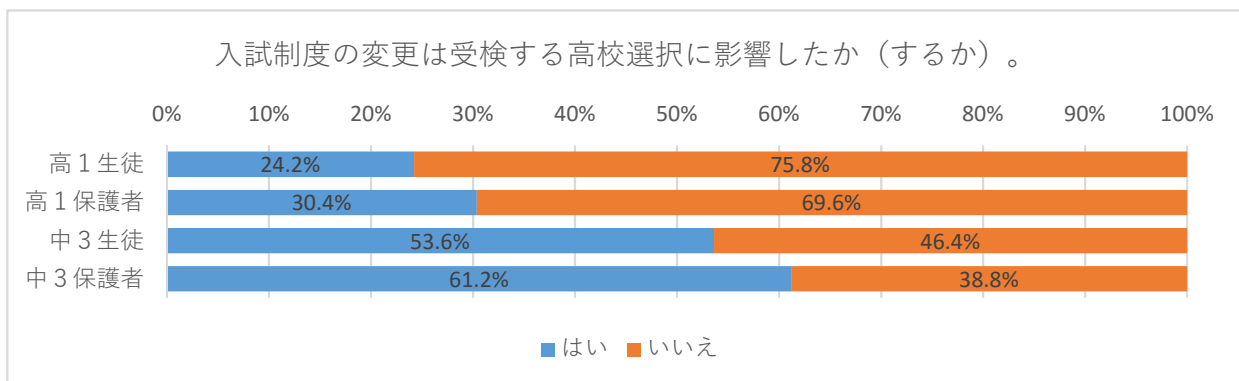
- ・受検するのは初めてなので。
- ・滑り止めが消えたから。

【中3保護者】

- ・そもそも2回受検することに意味がない、無駄に子供たちが傷つくと思っていたから。
- ・制度が変わり、さらに、その時期がコロナ禍だったこともあり、まだ情報が少ないので。
- ・前年度までのデータ(素点と可否の関係等)を参考にすることができないから。
- ・コロナ禍なのに何故お弁当を持たせるんだろう、という疑問がわきました。

問4 受検する高校の選択について

高1生徒75.8%、高1保護者69.6%が新しい入試制度は「進路選択に影響しない」と回答している。これに対し、これから受検する中3生徒、中3保護者は、新しい入試制度は「進路選択に影響しない」よりも「進路選択に影響する」と回答した割合が多い。



	はい	いいえ
高1生徒	870	2718
高1保護者	704	1612
中3生徒	397	343
中3保護者	452	286

問5 受検する高校の選択に影響した理由

1回しか受検ができないため、レベルを下げて受検したという回答が目立った。

【高1生徒】

- ・ 1回になったので偏差値を落とした。
- ・ 少し自分より高いレベルの高校に冒険するのが怖かった。
- ・ 自分の学力より低い高校へ行くか、自分の行きたい高校へ行くか悩んだ。
- ・ 定員がどう動くか分からず不安だった。

【高1保護者】

- ・ 失敗ができないという点で、ギリギリまで志望校が決まらなかった。
- ・ 確実に合格できる高校を選んだ。
- ・ 不合格になると後がないため、無理はさせませんでした。

【中3生徒】

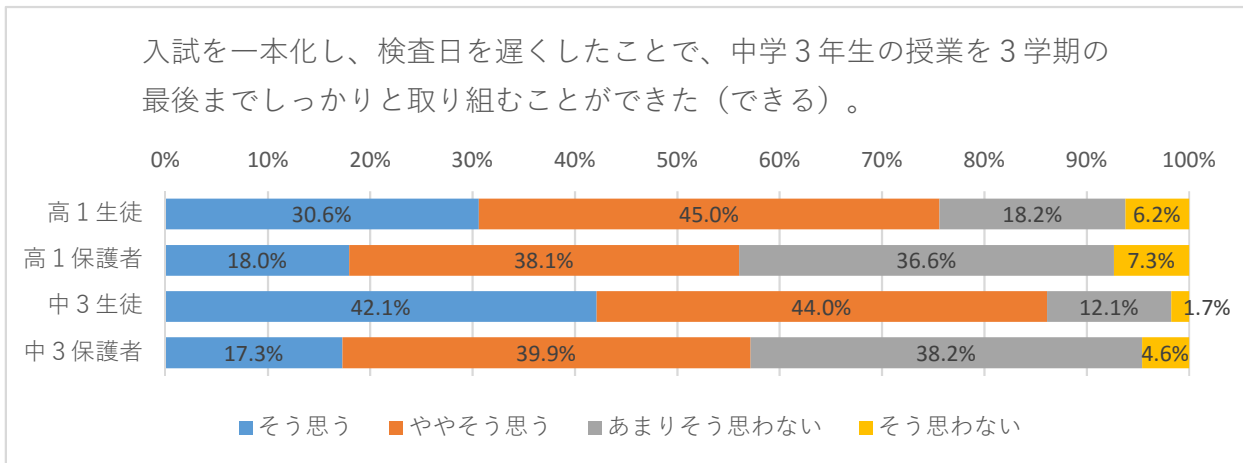
- ・ 一度目はチャレンジ校に挑戦できるから。
- ・ 合格するか不安なため、レベルを下げてしまうから。
- ・ 1回しか受けられないので高校のレベルを落とすかもしれないから。

【中3保護者】

- ・ 確実に入れそうな学校選びをする方が増えると思います。
- ・ チャンスが減るなら私立単願も視野に入れるから。
- ・ 余裕を持って受かる範囲を選択するにはレベルを下げる必要が出てくる。
- ・ 受験機会が1回になった為、失敗できない。

問6 検査日を遅くしたことによる中学3年生の授業の取組について

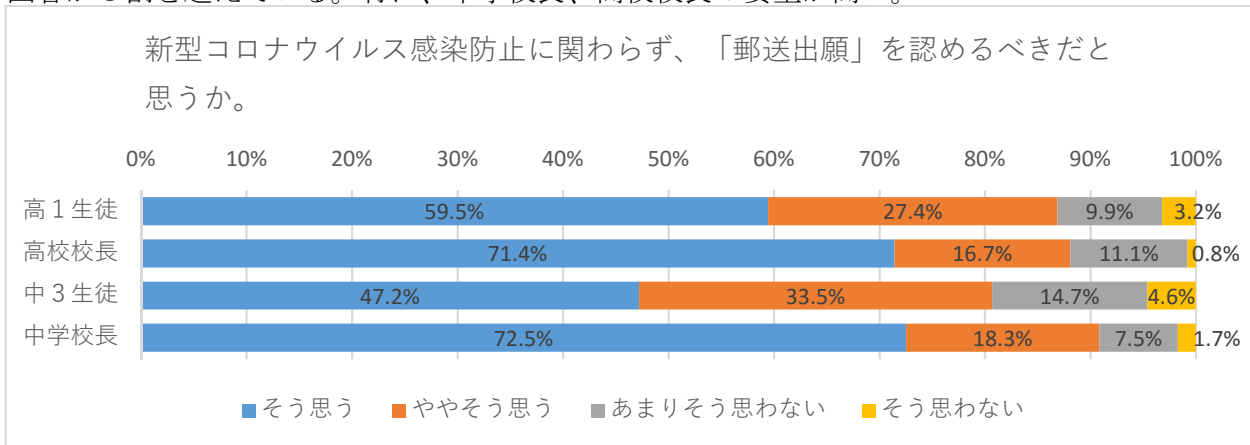
受検を経験した高1生徒75.6%が、中学3年生の授業を3学期の最後までしっかりと取り組むことができたという回答している。また、これから受検する中3生徒86.1%は、中学3年生の授業を3学期の最後までしっかりと取り組むことができると回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高1生徒	1097	1612	651	222
高1保護者	414	878	844	169
中3生徒	313	327	90	13
中3保護者	128	295	283	34

問7 郵送出願について

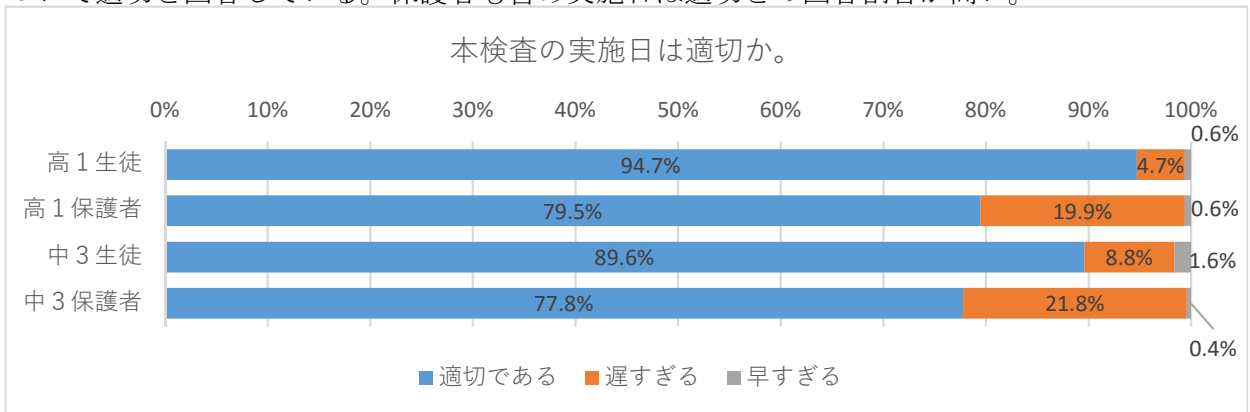
生徒・学校長から新型コロナウイルス感染防止に関わらず「郵送出願を認めてほしい」との回答が8割を超えている。特に、中学校長、高校校長の要望が高い。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高1生徒	2141	988	357	115
高校校長	90	21	14	1
中3生徒	350	248	109	34
中学校長	214	54	22	5

問8 本検査の実施日について

高1生徒94.7%が実施日について適切と回答。これから受検する中3生徒89.6%が実施日について適切と回答している。保護者も含め実施日は適切との回答割合が高い。



	適切である	遅すぎる	早すぎる
高1生徒	3413	169	21
高1保護者	1844	462	14
中3生徒	664	65	12
中3保護者	574	161	3

問9 本検査が遅すぎる・早すぎると回答した理由について

<遅すぎると回答した主な理由>

【高1生徒】

- ・私立組に煽られる。
- ・身体的にも精神的にも苦しい状態が長く続いたから。
- ・私立入試から、間が空きすぎていた。合格後の手続きが、慌ただしかった。
- ・早く終わった方が残りの学校生活を楽しめる。

【高1保護者】

- ・私立と公立の差がありすぎる。
- ・私立入試の1、2週間後。
- ・私立の人は、終わっているのに公立が遅くて精神的にキツイと思う。もう少し、早く入試にした方が良いと思いました。
- ・不合格の場合に対応する時間がなくなる。
- ・私立との調整が難しい。

【中3生徒】

- ・私立入試が終わってから、間隔が空いてしまい、モチベーションを保つのが難しい。
- ・私立で1月中に決まっている人がいる中、3月の受験は間があきすぎると思うから。
- ・検査日が遅いと私立と公立の人で差が生まれる。
- ・2月上旬。万が一公立に落ちてしまった場合、もう一度私立を受ける選択肢がなくなるので。

【中3保護者】

- ・もう一週位早いと良い。2月中に結果がわかる方が良い。
- ・合格発表から卒業式が近すぎて気持ち的に落ち着かないため。
- ・以前の前期日程のように、あまり、私立入試から間が空かないほうがモチベーションも保てて良いと思うから。
- ・12月頃、冬に実施しなくてもいいのでは。
- ・卒業式間近で、合格発表のため、私立受験者との温度差がある。
- ・合格発表の2日後に中学校卒業式の予定なので、卒業間際まで進路が決まっていない不安な状態で過ごすことになり、最後の中学校生活を満喫できないのでは…と思います。せめて合格発表が2月中にあれば前向きな気持ちで卒業を迎える時間を作れる気がします。
- ・卒業間近まで進路が決まらないのは不安の方が大きく、追い詰められた状況で勉強をするよりも、せめて卒業3週間前頃には進路を決めて、新たに高校に向けて前向きな気持ちで勉強に取り組んだ方が身になると思います。
- ・2月初旬。私立高校の入試時期と1ヶ月も差があると、生徒同士の空気感に違和感が生じかねない。今は、以前より私立第1志望の生徒も多く、公立第1志望の生徒が精神的に疲弊しやすい環境になるのではないかと思います。2週間くらいの開きで収めた方が良いのではないかと。

<早すぎると回答した主な理由>

【高1生徒】

- ・他県より2週間ほど早いため。3月10日ごろ。
- ・私立入試の1ヶ月後の公立入試は勉強が辛い。

【高1保護者】

- ・卒業式終わってから。
- ・もう少し勉強する時間が必要だと思う。

【中3生徒】

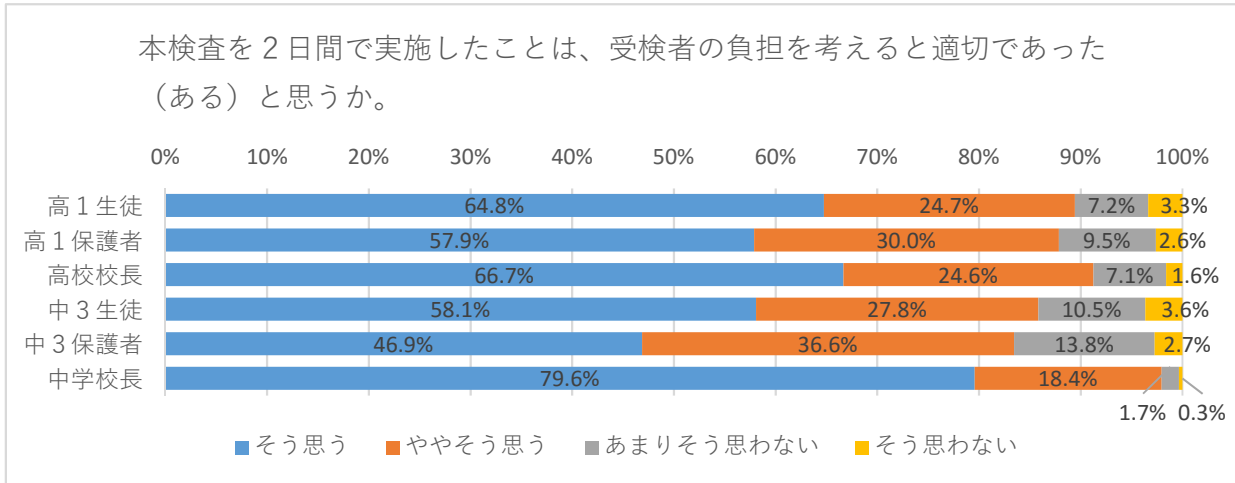
- ・もっと勉強する時間がほしいから。
- ・学校の授業のペースが後半ぐらいから上がり、復習の時間がとりづらいと思う。

【中3保護者】

- ・他の都道府県では三月が試験のところもあるから。

問10 本検査を2日間で実施したことについて

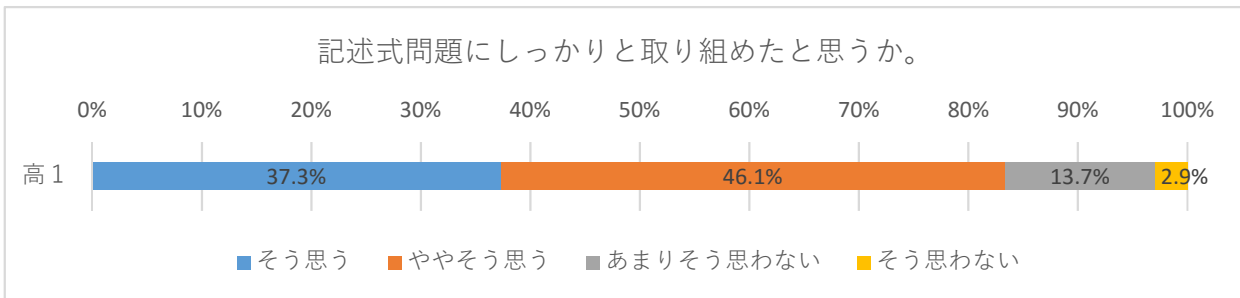
高1生徒89.5%が2日間で実施したことに適切であると回答している。また、中学校長の98.3%が適切と回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高1生徒	2328	887	260	120
高1保護者	1340	694	221	60
高校校長	84	31	9	2
中3生徒	431	206	78	27
中3保護者	346	270	102	20
中学校長	234	54	5	1

問11 記述式問題について

高1生徒の8割強が記述問題にしっかり取り組めたと回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高1生徒	1341	1658	492	106

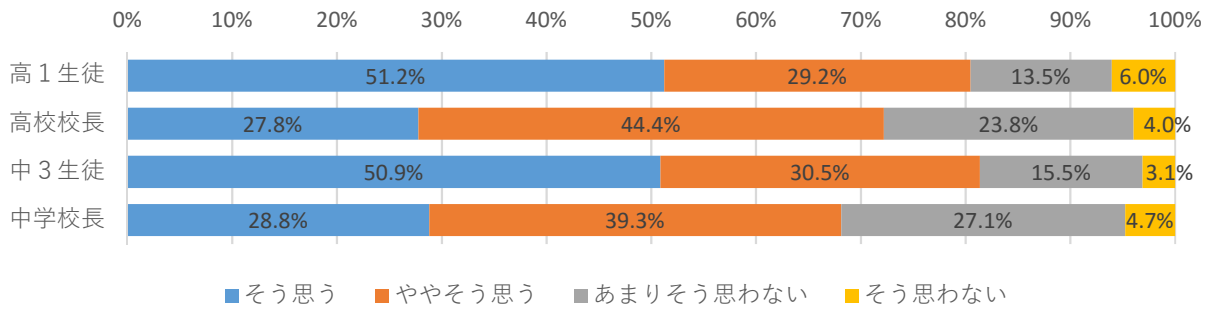
問12 英語の60分試験について

高1生徒も中3生徒も約8割の生徒が適切な時間設定だと回答している。

英語の検査時間が50分から60分に変更されたことは、適切な時間設定だったと思うか。(高1)

英語の検査時間が50分から60分に変更され、落ち着いて受検できると考えますか。(中3)

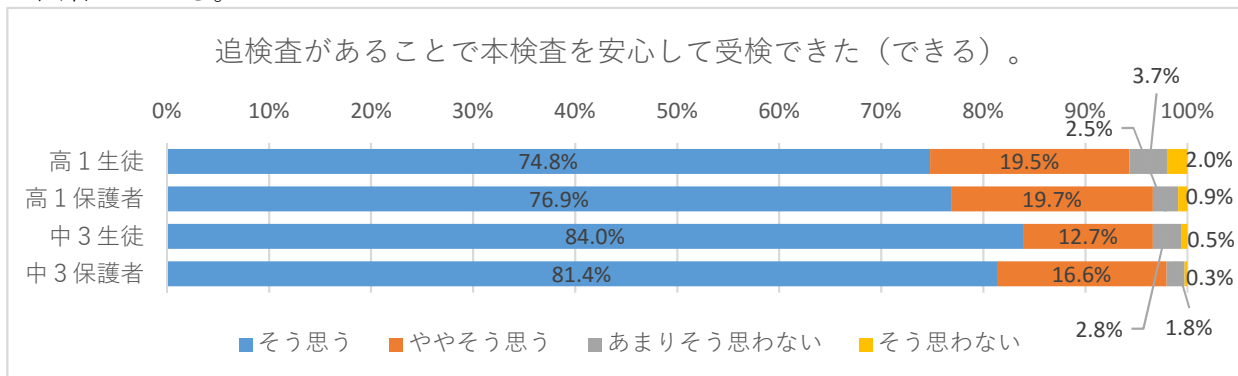
10分延長は英語の学力を測るうえで必要だと思うか。(校長)



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高1生徒	1845	1053	486	217
高校校長	35	56	30	5
中3生徒	377	226	115	23
中学校長	85	116	80	14

問13 追検査について

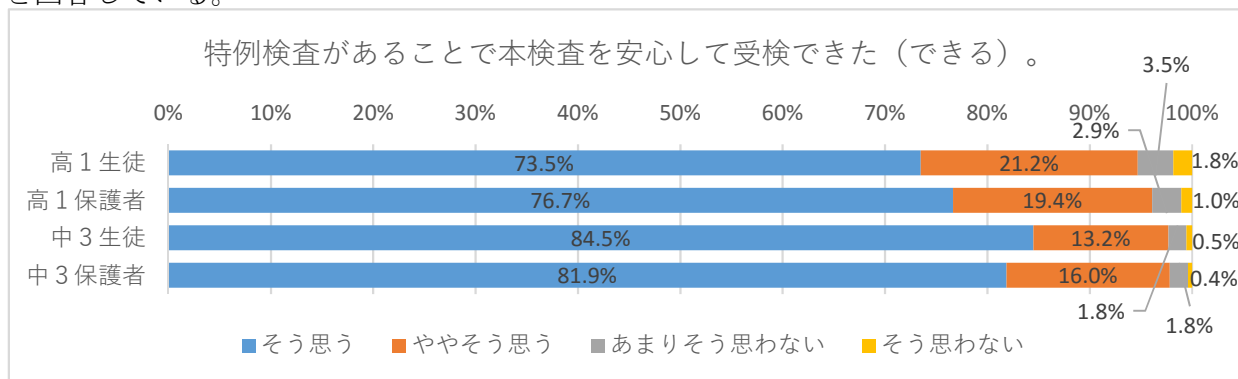
9割以上の生徒と保護者が、「追検査があることで本検査を安心して受検できた(できる)」と回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高1生徒	2668	697	131	71
高1保護者	1779	456	57	21
中3生徒	624	94	21	4
中3保護者	602	123	13	2

問14 特例検査について

9割以上の生徒と学校長が、「特例検査があることで本検査を安心して受検できた（できる）」と回答している。

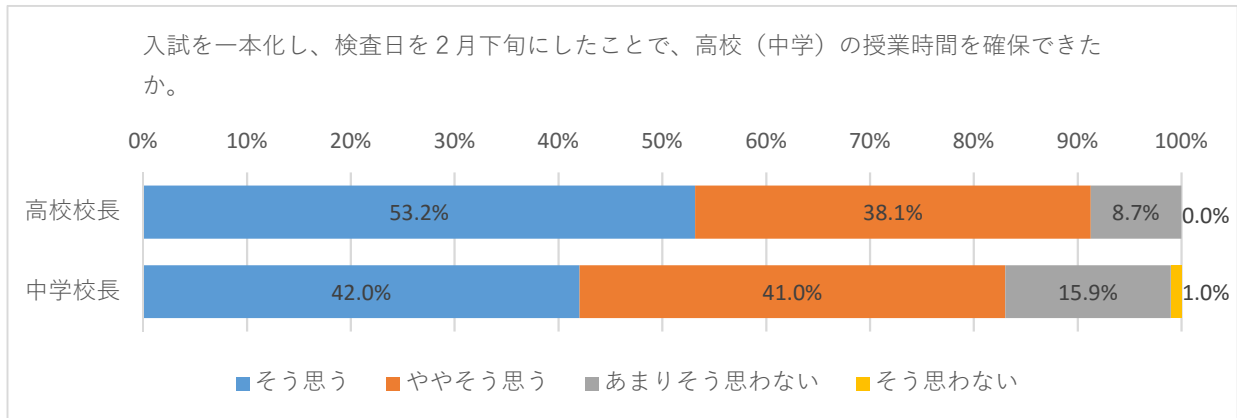


	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高1生徒	2624	758	124	65
高1保護者	1774	450	66	24
中3生徒	627	98	13	4
中3保護者	605	118	13	3

学校長の考え

問1 授業時間の確保について

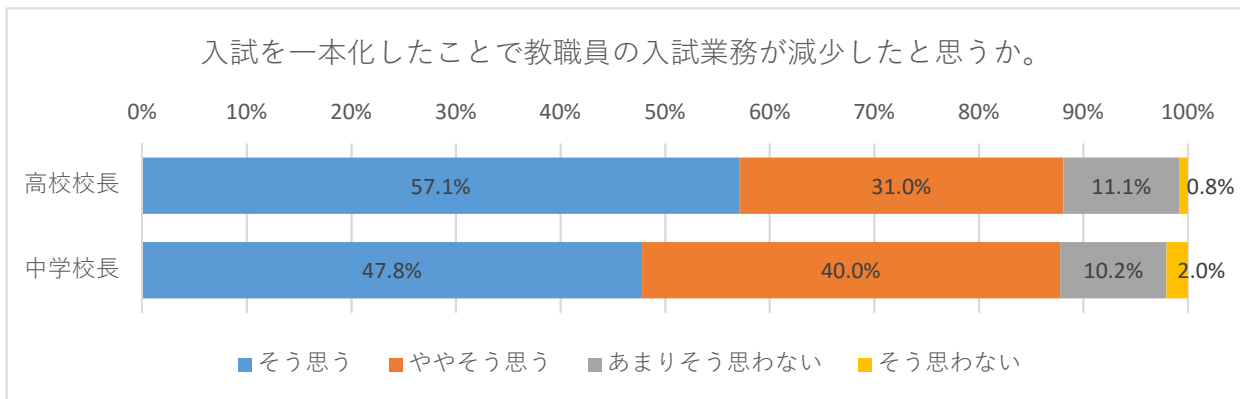
中学校長の約8割、高等学校長の約9割が「授業時間を確保できた」と回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高校校長	67	48	11	0
中学校長	124	121	47	3

問2 教職員の入試業務軽減について

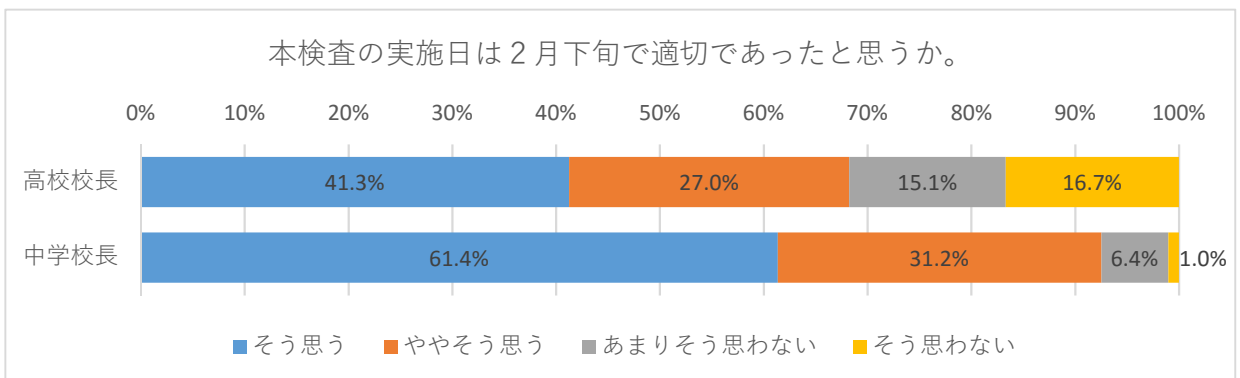
中・高の校長ともに、「入試業務が減少した」と回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高校校長	72	39	14	1
中学校長	141	118	30	6

問3 2月下旬の本検査の実施日について

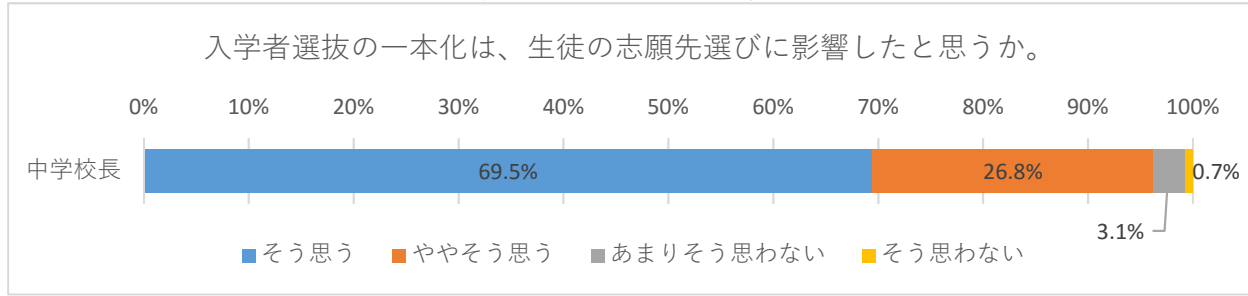
中学校長は92.6%が適切と回答しているが、高校校長はやや低く68.3%が適切と回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高校校長	52	34	19	21
中学校長	181	92	19	3

問4 志願先選びの影響について

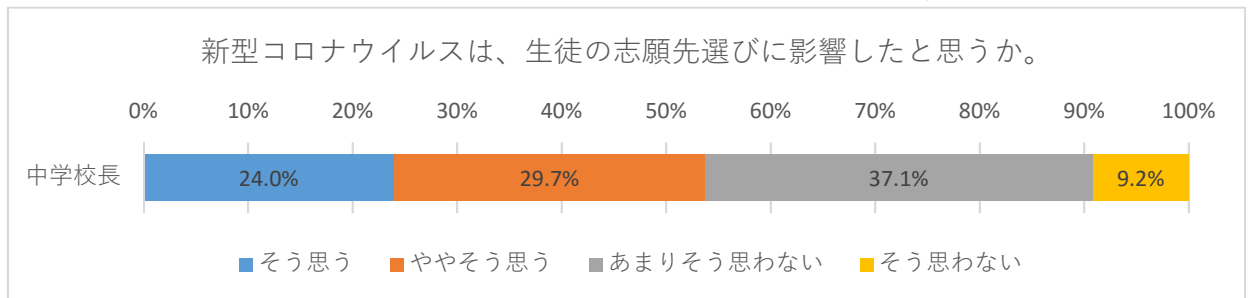
中学校長96.3%が「一本化は、生徒の志願先選びに影響した」と回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
中学校長	205	79	9	2

問5 期待する生徒像の必要性について

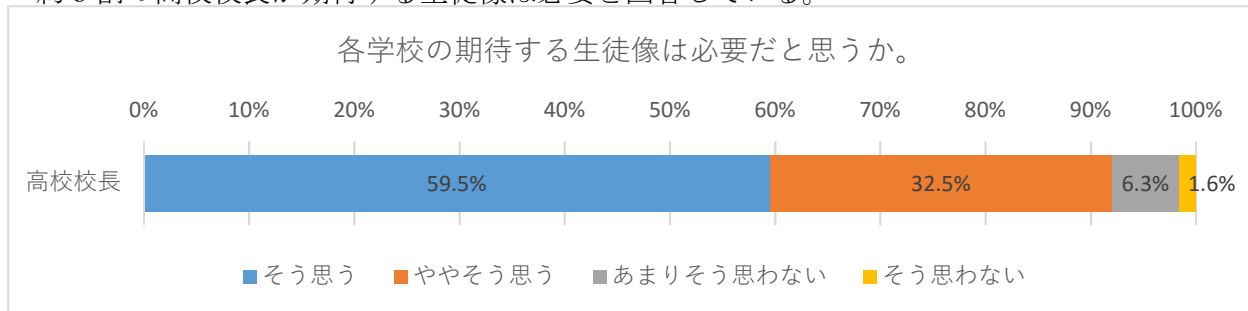
中学校長53.7%が「新型コロナウイルスは、生徒の志願先選びに影響した」と回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
中学校長	55	68	85	21

問6 期待する生徒像の必要性について

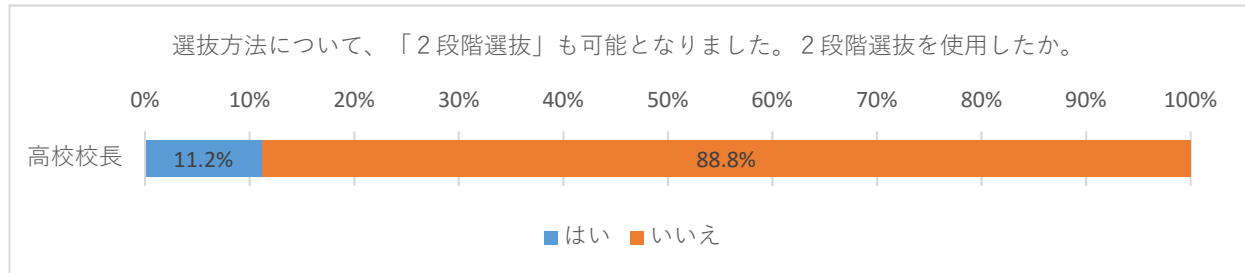
約9割の高校校長が期待する生徒像は必要と回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高校校長	75	41	8	2

問7 2段階選抜を使用した学校の割合について

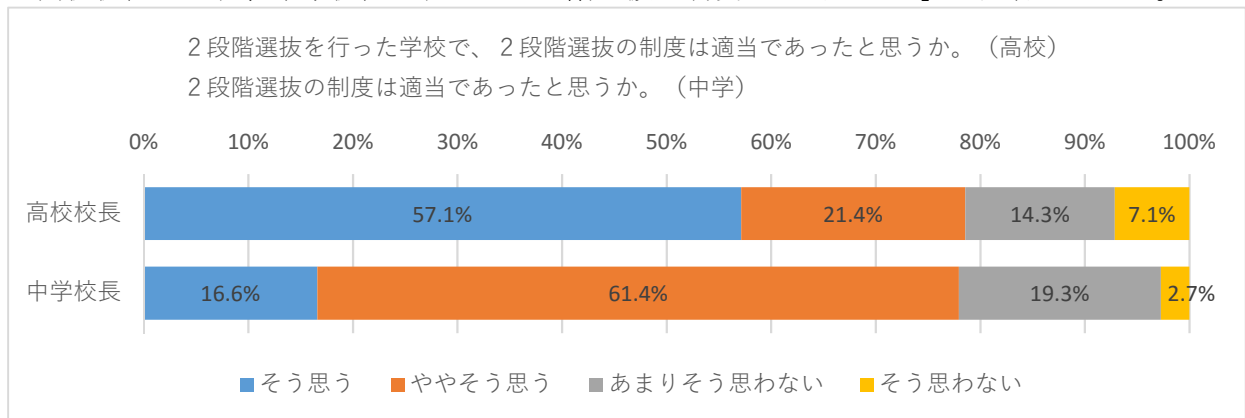
2段階選抜を実施した学校は1割程度であった。



	はい	いいえ
高校校長	14	111

問8 2段階選抜について

高校校長78.5%、中学校長78%が「2段階選抜の制度は適当である」と回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高校校長	8	3	2	1
中学校長	49	181	57	8

問9 2段階選抜の制度を使わなかった理由について

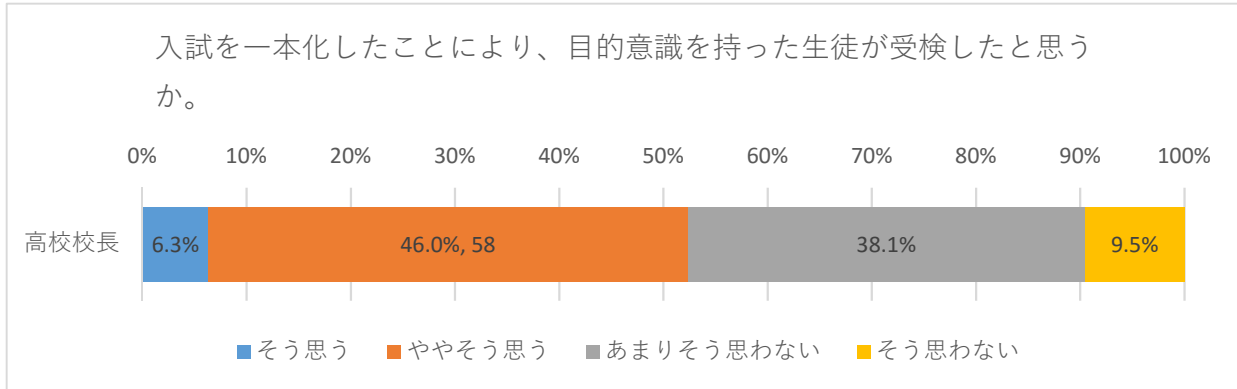
約9割の学校が2段階選抜を実施しなかった。主な理由は以下の通りである。

() 内の数字は同意見数。

- ・1段階のみの選抜による同一基準の判定の方が適切と考えたため。(1 2)
- ・選抜の仕方が複雑になることにより、ミスが起こる心配があった。(1 3)
- ・判断がしやすい。(2)
- ・必要性を感じなかったため(2 4)
- ・本校の選抜方法で、十分多面的に評価し選抜できると考えたから。(6)
- ・一段階の方が受検生にわかりやすいから。(4)
- ・期待する生徒像に基づいて実施。(5)
- ・公平性が保てるとは思わないから。
- ・1段階目で学校設定検査を総得点に含めることが義務付けられ、かつ2段階目の配点の上限が1段階目の上限を超えられないので、差をつけにくいから。
- ・少子化が進んでおり、募集定員に志願者が達しないため。(4)
- ・志願者が定員に満たなかったため。(2)
- ・高い学力を入学者全員に求めているため(2)
- ・学力検査と調査書を重視して選抜することを、県民に明確に示すため
- ・使わなくても適切に審議できるから。
- ・今までの選抜方法を踏襲したため。
- ・2段階選抜を使用する理由がない。
- ・学校設定検査が面接のみであったため。
- ・学校設定検査を十分点数化して合計しているため。
- ・期待する生徒像との関係 2段階選抜を行うならば推薦入試を検討したい
- ・選抜資料の配点を変える必要性がないため。

問 1 0 目的意識を持った生徒の受検について

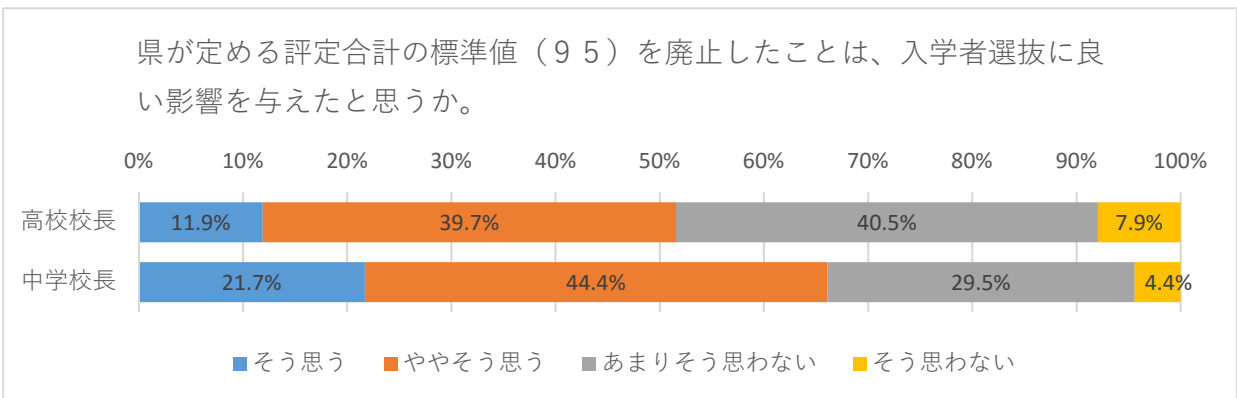
約 5 割ほどの高校校長しか目的意識を持った生徒が受検したと感じていない。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高校校長	8	58	48	12

問 1 1 県が定める評定合計の標準値（95）の廃止について

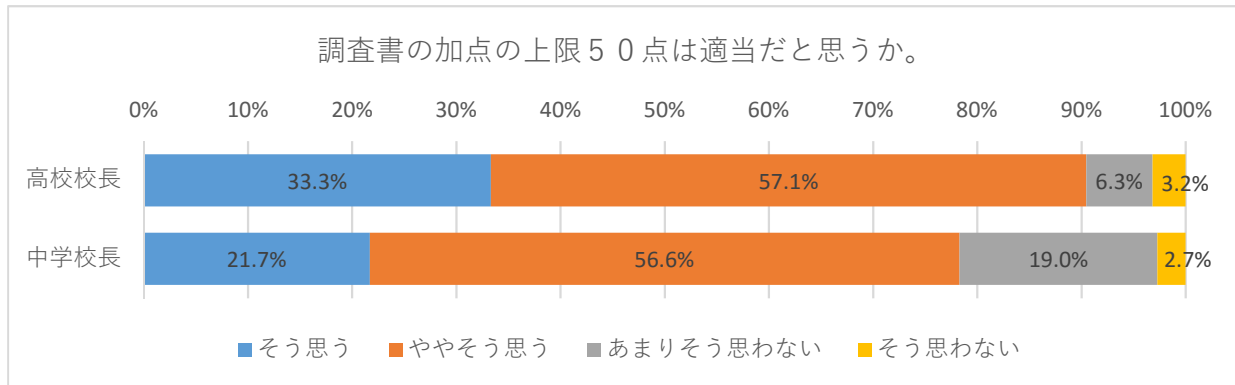
中学校長66.1%が評定合計の標準値の廃止について肯定的だが、高校校長は51.6%の回答であった。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高校校長	15	50	51	10
中学校長	64	131	87	13

問 1 2 調査書の加点の上限50点について

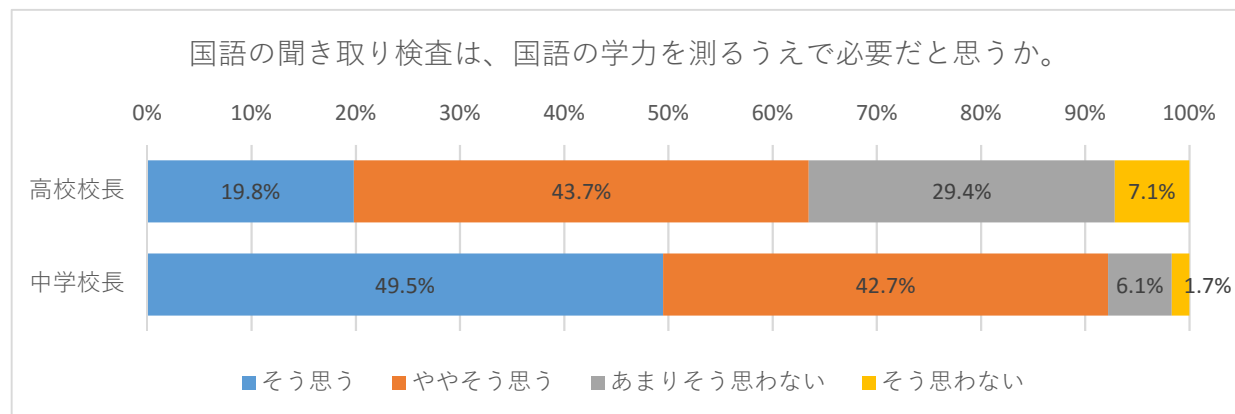
高校校長90.4%が上限50点は適当と考えるところ、中学校長は78.3%しかいない。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高校校長	42	72	8	4
中学校長	64	167	56	8

問 1 3 国語の聞き取り検査について

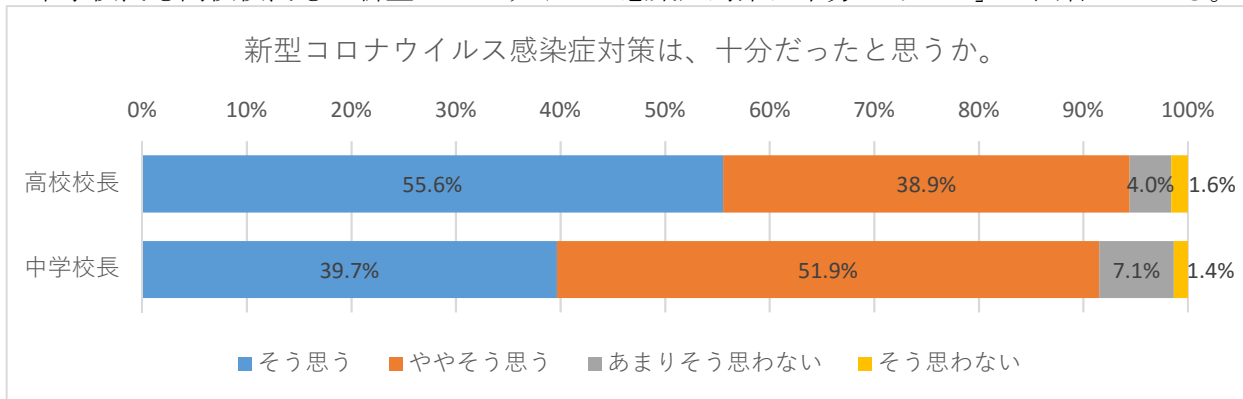
中学校長92.2%が「国語の学力を測るうえで聞き取り検査は必要」と回答しているところ、高校校長は63.5%であった。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高校校長	25	55	37	9
中学校長	146	126	18	5

問14 新型コロナウイルス感染症対策について

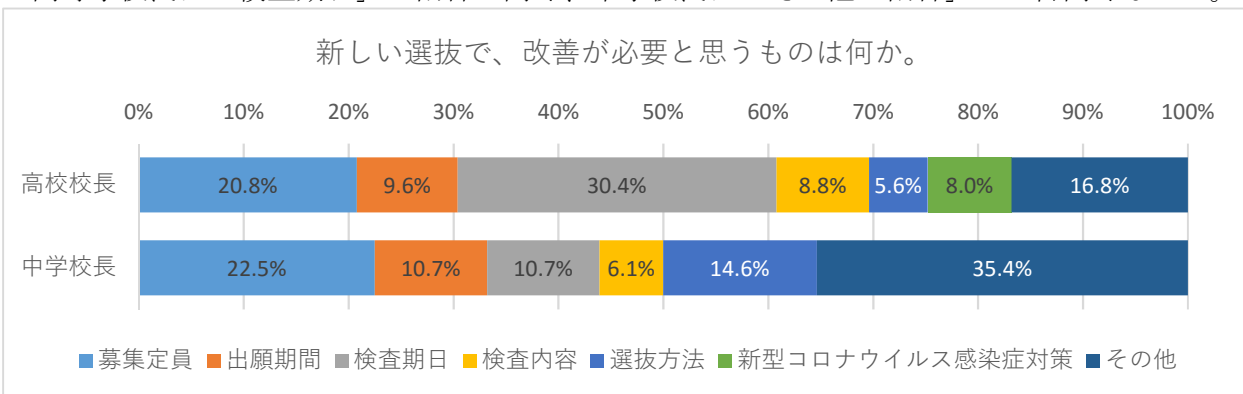
中学校長も高校校長も「新型コロナウイルス感染症対策は十分であった」と回答している。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
高校校長	70	49	5	2
中学校長	117	153	21	4

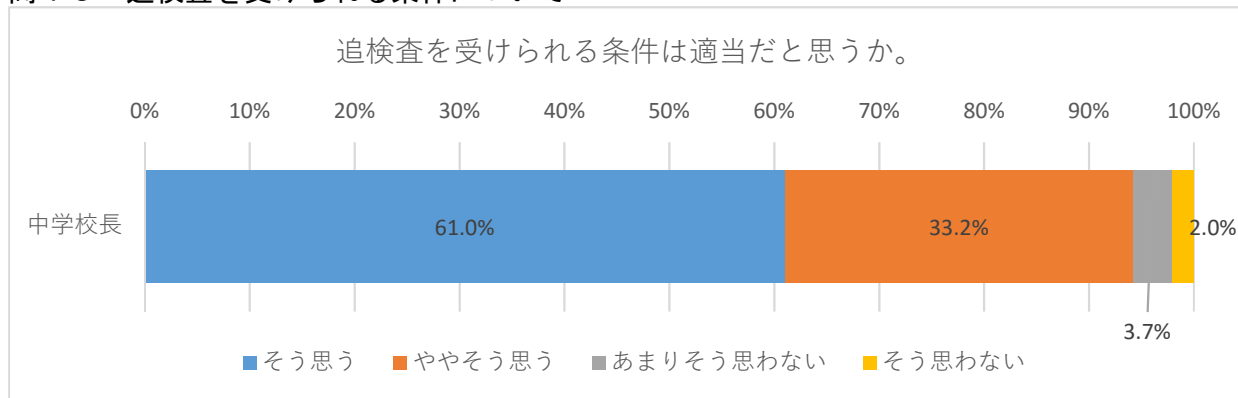
問15 新しい選抜の改善について

高等学校長は「検査期日」の割合が高く、中学校長は「その他の割合」が一番高くなった。



	募集定員	出願期間	検査期日	検査内容	選抜方法	新型コロナウイルス感染症対策	その他
高校校長	26	12	38	11	7	10	21
中学校長	63	30	30	17	41	0	99

問16 追検査を受けられる条件について



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
中学校長	180	98	11	6

問16 一本化の改善点について

① 募集定員

【中学校長】

- ・中位から下位の学校の定員割れが目立った。また、もともと倍率が高い人気校の募集定員をなぜ減らしたのか。
- ・地域によっては各高校の志願者数が軒並み募集定員に満たない地域がある。中学生の学習意欲の低下につながりかねないとする。
- ・地域に応じた適切な募集定員が望ましい
- ・安房地区は定員に満たない学校が複数校あるため。
- ・都市部以外の倍率が低く、倍率のばらつきが大きい。
- ・倍率が1を切る高校を減らしていく方が良い。
- ・高校無償化に伴い、私立高校と公立高校の違いが是正されつつある現在、公立高校の定員見直しは必須とする。

【高等学校長】

- ・適切な県立高校の定員を定めていただきたい。
- ・現行の入試制度維持なら、受験生の私学指向は止まらない。
- ・クラス数ではなく、クラスの定員を減らして、募集定員を考えるべきだと思う。
- ・私学の動向を見極め、公立学校の募集定員を定めるべきである。
- ・外国人及び帰国の特別選抜まで募集定員としたこと。

② 出願期間

【中学校長】

- ・多少長めに設定し、出し忘れ等が内容に対応していただきたい。
- ・出願期間の曜日や併願校との関わりから窓口出願で、週をまたぐ期間であるときは、土日も受付を可としていただきたい。
- ・地域によって、職員の対応が大変だったところがあった。
- ・出願期間を長くしても初日の午前に集中しています。地区ごとに日時を指定するかまたは Web 出願にするか、出願については改善を希望します。
- ・ウェブ出願体制の構築をお願いしたい。
- ・出願は基本志願者本人が窓口で行うべきと考えているが、昨年度、出願期間の初日に郵送で志願先に届くようにしたところ、受検票が返送されてきたのが最終日の夕刻で志願した生徒が不安な思いをしたため。
- ・郵送での出願が可能となれば、現在よりも出願期間を長くしていただくと余裕をもって準備ができると思われる。
- ・出願期間は柔軟性をもたせるべき、中学生が自己責任を負える事はできない。
- ・出願を郵送することも考えた日程を考えたほうがよい。
- ・以前からではあるが、学校によっては、混雑により時間がかかるので、地区ごとに期間を分けるなどして分散させてほしい。

【高等学校長】

- ・私学の発表を待ってからでは、私学に流れるため。
- ・出願期間は2日間で十分だと思われる。ほとんど初日で終了する。
- ・全て郵送出願にして欲しい。直接出願なら、2日で終了する。
- ・通信制の本校では全日制とは異なり、長期にわたる出願期間と長期にわたる選抜の機会を設けることを別途工夫すべき、と考える

- ・全体として期間が長く、待機職員などの負荷がかかる。
- ・出願期間を2日間にして欲しい。
- ・はじめから郵送出願を前提とした計画をたてて欲しい。
- ・出願期間を長くする必要は無いと思うため。
- ・R3年度入学者選抜について、県下の公立高校の倍率の激減は大問題である。

③ 検査期日

【中学校長】

- ・2次募集（15日）と特例検査（19日）の日程に改善が必要。コロナ感染者は2次募集が受けられなくなる。
- ・子どもの心理的負担を考慮すると、私立の日程と間隔が空きすぎるのは、厳しいと感じる。
- ・私立入試日と間をあまり空けたくなく、卒業式準備にもゆとりができるので。
- ・数日早くしてほしい。卒業式の準備や卒業に向けての取り組みに、もう少し期間がほしい。
- ・私学の入試日程が変更にならなければ、公立の検査日程が変更になっても12月末を目安に授業内容を終わらせなければならないことに変わりはない。
- ・受検後、3年生が学校にいる時間が長くなればなるほど、3年担当者の負担が増える。卒業式と関連させて受検日程の調整が必要と考える。
- ・せっかく一本化したのに下旬では卒業までの日程が慌ただしく、十分に振り返りができない。
- ・木更津高専と併願する生徒が検査日の途中で受検辞退する必要のないような日程を調整していただきたい。

【高等学校長】

- ・追検査から合格発表までもう少し余裕があるべきだと考える。
- ・合格発表が卒業式の前日であること。私立高校の入試が優先されている結果となっていること。
- ・郡部の学校では、隣接学区(千葉市)希望や私学(単願)により募集定員に満たず、二次・特別・追など逆に検査回数が増えたことにより、職員の負担が大きくなった。
- ・検査前日が休日の日程は適切でないと考える。
- ・出願期間、検査日時をもう少しはやめてもよいかと思う。
- ・検査期日が遅く多くの生徒が私立に流れ、中学生4人に1人は公立を受検すらしていない。併せて、出願のオンライン化を進めていただきたい。
- ・私学の可否結果が固まる前に検査を実施すべきと考える
- ・検査を2月23日の一週前にできないか。祝日を挟まないほうが良いと考える。
- ・現状だと私立に流れるので前期選抜の時期に実施してほしい。
- ・学校行事や追検査のことを考えると遅くとも2月中旬には実施してほしい。
- ・私学助成が公立校離れを生んでいる。私学と公立校の検査期日に大きな差がないほうが良い。
- ・学年末行事や第2次募集への対応を考えると、2月中旬が良い。
- ・県立高校の検査日と私学発表との間隔が長いと、県立を受験しない生徒が多くなるので私立高校よりも後に実施すると、完全に受け皿となってしまふ。
- ・私学との兼ね合いで、なるべく早い実施を望みます。
- ・本検査後の業務が続き、学年末が繁忙となる。（私学発表から本検査までの期間短縮を希望する）
- ・追検査等の実施を踏まえ、選抜業務に万全を期するため、カレンダーにより可能な年については、1日～2日早く実施すべき。
- ・授業料の問題もあるが、私立の選考と離れすぎている。中学生と保護者は、早く進路先を決定させたい。遅いほど公立離れが進むと考える。
- ・学校独自検査のウェイトを大きくして、円滑に実施するための時間確保が必要。

- ・①私立が入試日程を変えていない中で、私立入試で学力が測定されており、中3の授業時数確保のため公立が2月下旬まで遅くする理由がなくなったため。②公立を志望する中学生が、3月上・中旬まで進路が決まらないのは、メンタル面で不安定な時期をいたずらに長引かせているため。③重要な学校行事である卒業式と人事異動の準備等の業務が選抜業務と重なっており、過大な業務が2月下旬から3月上旬に集中している。働き方改革の視点から、校務の年間を通した平準化を図る必要があるため。

④ 検査内容

【中学校長】

- ・英語科の時間が長い。
- ・英語の60分の必要性を感じません。
- ・思考力・判断力・表現力を問う問題等の難易度が高く、学力があまり高くない生徒には厳しい。授業だけで対応することはかなり厳しい。
- ・学校により、基準が曖昧であるため。
- ・学習指導要領が変わり、評価内容が変わったため。
- ・2日目の午後に行われる高校独自の問題で、面接や、自己表現を多少重視できる学校があるといい
- ・①英語の試験時間を50分に戻す。ヒアリングに時間がかかるのなら、他の問題を減らし学習指導要領の一コマの標準時間に合わせる。②学校設定検査の内容・方法を明確にする。③授業改善の観点から、国が求める学力観や全国学調の趣旨に、より一層適合した問題であってほしい。

【高等学校長】

- ・放送による検査(国語、英語)の必要性、解答方法(マークシートの導入)の検討を行っていただきたい。
- ・各校の状況により、難易度の異なる検査問題を選択できることが望ましい。
- ・受検生・職員の負担及びコロナ禍での受検を考えると、「学校設定検査の実施」は、学校裁量で行えるようにしてほしい。
- ・思考力を問う問題のありようは、吟味する必要があると考えるため。
- ・マークシートの導入や、アドミッションポリシーに示した上でのA、B問題の実施2日目の学校設定検査を重視しているが、十分な時間を確保できていない。
- ・学校の特色をより明らかにするため。

⑤ 選抜方法

【中学校長】

- ・内申点は要録の評定とは切り離す。例えば入試用の相対評価を採用してほしい。
- ・学校の評定は絶対評定なので、学校差があっても当然であろう。入試の判定に使われること自体に矛盾があると考えている。
- ・調査書の記載内容や面接をどの程度まで重視するのかをもう少し明確にしていただけると幸いです。
- ・評定(内申)値の学校差をどのように判断するのが不明瞭。(中学校における絶対評価を入学検査(相対評価)に用いることの是非がわからない)
- ・県立高校全て同じにするのがよい。
- ・調査書の記載事項は簡素化されつつあるが、摘記する項目や加点が各高校で異なるため、記載する側の負担軽減にはつながっていない。(総合所見は必要なのか)
- ・中学校ごとの評定基準が違うため、不公平間がある。
- ・ほぼ全入の時代に複雑な制度が必要なのか、疑問を感じている。
- ・調査書の加点は必要ないと思う。

- ・特別活動での評価をもう少し加味してほしい。
- ・評定合計標準値をなくしたときの学校間格差の是正がないと、新学習指導要領全面実施に伴い、各学校の評定に差が生じることが危惧される。
- ・学力試験以外の別な方法で選抜されると、勉強が苦手な生徒が救われるのではないかと考える。
- ・学校によって二次試験が違うので統一化がよい
- ・未だに皆勤を加点している高校もある様子。コロナ禍で皆勤は全く意味がないので全校やめてほしい。
- ・調査書の評定合計の標準値がなくなったことで、中学校間の評定合計の差が生じ、公平性の確保が難しくなったのではないかと思うため。
- ・国語の聞き取りも別時間の設定が望ましい。
- ・評定の扱い、二段階選抜が保護者と受検生にとってわかりにくい。

【高等学校長】

- ・後ろに余裕がないと感染症等へ罹患した場合等にその後の対応が慌ただしくなりすぎる。
- ・2段階選抜の80%枠が変更できるとよい。
- ・理数科と普通科のくくり募集を実施すべきである。
- ・2段階選抜は不要と考えたから。
- ・調査書の評定値は、同じ数値であっても中学校によって差がありすぎて信頼性に欠ける。

⑥ 新型コロナウイルス感染症対策

【高等学校長】

- ・職員の感染が心配であり、お願いできない。
- ・郵送と直接提出で対応に混乱が多少あった。コロナ感染対策としては原則、郵送でもよかったのではないかと（志願変更除く）。
- ・感染症対策のため、上着の着用可・机間巡回不可等、監督がしにくい。発熱者・体調不良者用の教室の確保や検査室等の消毒はどこまで必要かを明確にしてほしい。
- ・出願方法は郵送による方法に1本化していただきたい。合格発表はWebと学校掲示を同時刻で発表していただきたい。開示について窓口を止め、Webで可能なシステム提供をしていただきたい。
- ・受検生に提出させる「健康観察シート」の記入形式がわかりにくかった。
- ・県からの指示が、急であったり、曖昧であったりしたため、対応に苦慮したから。
- ・通知から試験日までの日程の関係。
- ・現場は非常に気を使う。

⑦ その他

【中学校長】

- ・志願変更の期間は、以前のように1日半あると安心できる。
- ・今後、郵送による一括出願でもいい。ただし、受験票も学校あてに一括郵送していただければ、受検生宛ての封筒もなくて済むと思います。
- ・公立の中間層の高校は定員割れが増えた。私立に比べ学校に特色がないと今後も定員割れが心配される。
- ・公立と私立の試験日程について、更に話し合って協議すべきだと思う。
- ・Web出願についても今後は進めていただきたい。
- ・入学許可候補者について、各学校の発表とweb発表を同時刻にお願いしたい。
- ・日程について・・・出願(R3/2/9~12)から発表(R3/3/5)までが長い(24日間)。その間、受験生はどんな気持ちで待っているか考えると、期間の短縮を望む。

- ・合格発表時の各高校で受け取る書類の有無について・・・返信用封筒に入れて郵送することを望む。(そのための切手代の変更等が必要なら、要項を改訂していただきたい) それが出来ないならば受検者心得等に明示していただきたい。またあわせて県教委のHPに掲載していただきたい。
- ・「評定合計の標準値」を設定すべき。絶対評価にしている以上、評価する側のさじ加減で生徒の評価が甘くなる場合があるのは必然。適正に評価することがしづらくなるのはおかしい。
- ・理数科等の志願者数が少ない学科の再編。
- ・新たに始めた入試方法は、10年は(特段の理由なしに)変えてほしくない。
- ・追検査の手続きの流れをわかりやすく周知してほしい。
- ・調査書に関すること。(記載事項の見直し)
- ・コロナ禍ではありますが、生徒が進路先を考えるうえでも説明会、体験入学等の回数を確保していただければよいと思います。
- ・出願方法は常に郵送を可とする。
- ・発表はweb発表を午前9時にしてもらいたい。
- ・感染してしまった時の特例措置など昨年度は通知されるのが遅く、私立の入試相談の期限がぎりぎりでした。早めに検討し、示していただけると助かります。
- ・発表方法は、県統一で「Webのみ(返信用封筒も提出している)」でよい。(書類関係は各個人に郵送。昨年度は各高校によって発表日の対応が違い、当日必ず来校する事を促している学校もあり、生徒からの情報でしか分からなかった。)
- ・調査書の記載内容を検討してほしい。部活動の成績は最上位のものを1つ書くようにすること、皆勤の記載をなくすことは、ぜひお願いしたい。
- ・「合格させる気がないなら『外国人の特別入学者選抜』などやらなければよい」と思われた高校がありました。
- ・昨年度コロナ対策として、郵送や追試験等があったが、示された時期がとても遅く困りました。入試要項に入れていただきたい。無理な場合は、できるだけ早く(10月くらいまで)示していただきたい。
- ・新型コロナ感染防止対策のため出願が多様化して対応が難しい。
- ・成績一覧表の提出は本当に必要なのでしょうか。選抜試験に成績一覧表がどのように生かされているのかが現場では見えにくく感じています。また、今以上に調査書記載内容の簡略化を検討していただければと思います。特に行動の記録については、全項目に○を記載している生徒が多く、判断しづらいつらいと思われます。
- ・合否発表についても、受検校に行かないで、郵送等をお願いしたい。
- ・選抜は2回に戻すべき。選択肢を多くさせてあげることが大事である。

【高等学校長】

- ・一般入学者選抜と特別入学者選抜との募集枠については改善を含め検討をお願いしたい。
- ・全て郵送のみとすれば、持参者の待機に職員を充てずに、開封と確認処理に集中できると思います。
- ・公立の定員割れ、志願者数の二極化、私立の定員増に鑑みると、定員の厳格化は県民の期待に応えていないと考えるため。
- ・合格発表の方法と結果の通知の簡素化。
- ・全受検生に対して郵送出願のみとしてほしい。また、受検票を送付する際は、書留等配達記録が残るものがよい。
- ・私立高校の入試日程を2週間程度下げて欲しい。
- ・5教科を2日間で実施したため、受検生の負担は、制限されたと思います。ただし、前期選抜2日目の内容を半日で実施しなくてはならない学校もあり時間的に厳しい学校が多かったのではないのでしょうか。また、定員に満たない学校が増えた原因を検証していくことが必要だと感じました。

4 まとめ

ア 「前期選抜」「後期選抜」において、

①前期発表後の中学校の授業で、教室の中で合格者と不合格者が混在するため、落ち着いた学習環境を保てなかった。

②入試の長期化で中学校・高校ともに授業の確保が難しくなっている。
等の意見があった。

今回の一本化で、選抜の時期を遅らせ、授業数の確保をした。アンケートから高校に入学した多くの高1生徒から、「検査日を例年より遅くしたことで、中学3年生の授業を3学期の最後までしっかりと取り組むことができた」「学力検査の記述式問題にしっかりと取り組めた」との回答を得た。また、これから受検する中3生徒からも、「検査日を遅くしたことで、中学3年生の授業を3学期の最後までしっかりと取り組むことができる」との回答を多く得た。

中学校長の約9割が「本検査の実施日は2月下旬が適切である」と考えているが、高等学校長は約7割である。選抜の実施時期については、授業確保の面で有効であると考えているが、引き続き検討していく。

イ 中3生徒81.7%、高1生徒77.5%が新たな入試制度で不安を感じていた。不安を感じていた生徒の約9割が「2回の受検機会が1回になったこと」と回答している。

ウ 高1生徒75.8%が一本化の入試において進路選択に影響なしと回答、24.2%が影響ありと回答している。その理由として自分の学力に不安があり、チャレンジできなくなった旨の回答が多かった。

中3生徒46.4%が一本化の入試において進路選択に影響なしと回答、53.6%が影響ありと回答している。その理由は高1生徒と同じで、自分の学力に不安があり、チャレンジできなくなった旨の回答が多かった。

中学校長96.3%が一本化によって、生徒の志願先選びに影響したと回答している。

エ コロナに関係なく「郵送出願」を必要としている。出願方法について改善を図っていく。

オ 中・高の校長は、調査書の加点の上限50点は適当であると考えている。

カ 入試を一本化したことで入試業務が軽減した。

キ 英語の検査時間を60分にしたが、検査問題数も含めて検討していく。また、国語の聞き取り検査のあり方についても、中学校長と高校校長の考え方に相違があることから、今後検討していく。

ク 2段階選抜を実施している学校が少ない。その理由は、煩雑でミスが起こるからの回答が多かった。2段階選抜について、課題を整理し改善を図っていく。

ケ 評定合計の標準値の廃止について、中学校長と高校校長で考えの差が目立つ。今後、評定合計の推移を注視していく。

コ 特例検査は受検機会を確保するという点で有効であるため、引き続き実施していく。